

横浜市インフルエンザ流行情報 1号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

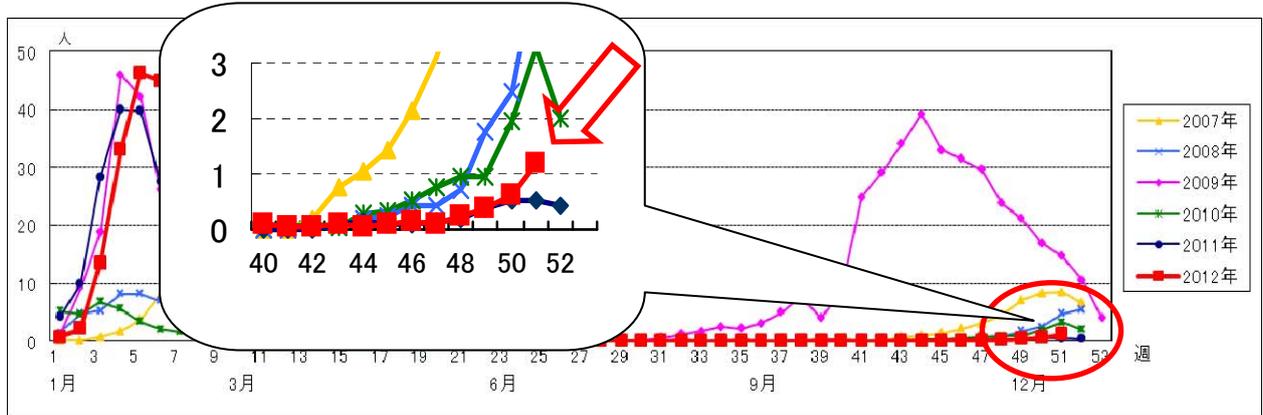
横浜市内でインフルエンザが流行期に入りました。

【概況】

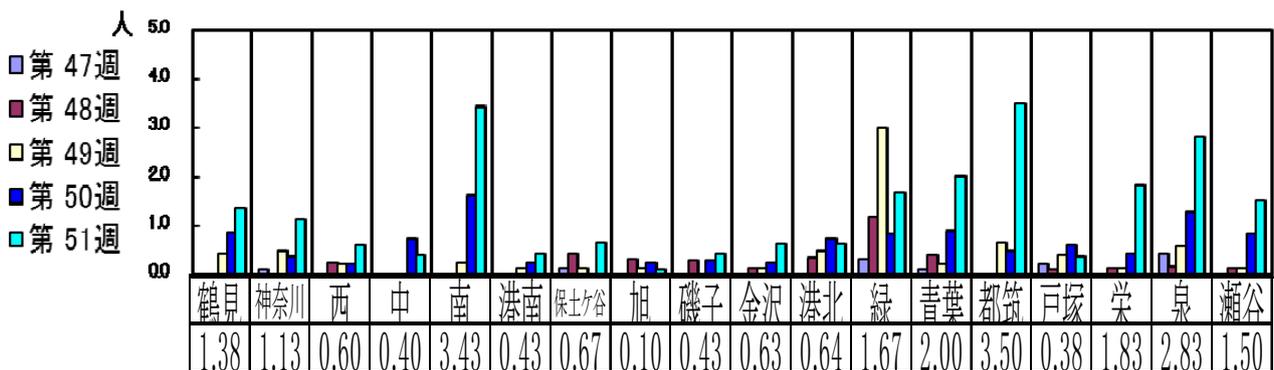
横浜市では、2012年第51週(12月17~23日)の定点^{※1}あたりの患者報告数が、流行開始の目安となる1.00人を超えました。
 全国では既に第50週(12月10~16日)に定点あたりの患者報告数が1.17となり、流行期に入っています。全国のウイルス検出状況^{※2}では、AH3亜型(A香港型)が主流となっています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策^{※3}が重要です。

※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内152か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
 ※2 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)
 ※3 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

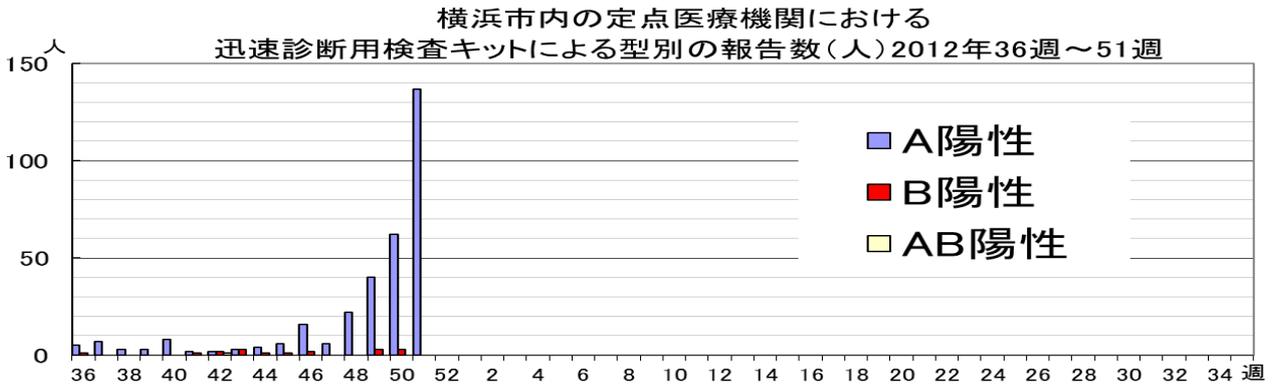
1 市内流行状況:市内では、定点あたりの患者報告数が第50週0.63でしたが、第51週1.21となり、流行期に入りました。



2 区別流行状況:最も多い区は都筑区 3.50 で、次に南区 3.43、泉区 2.83 となっています。

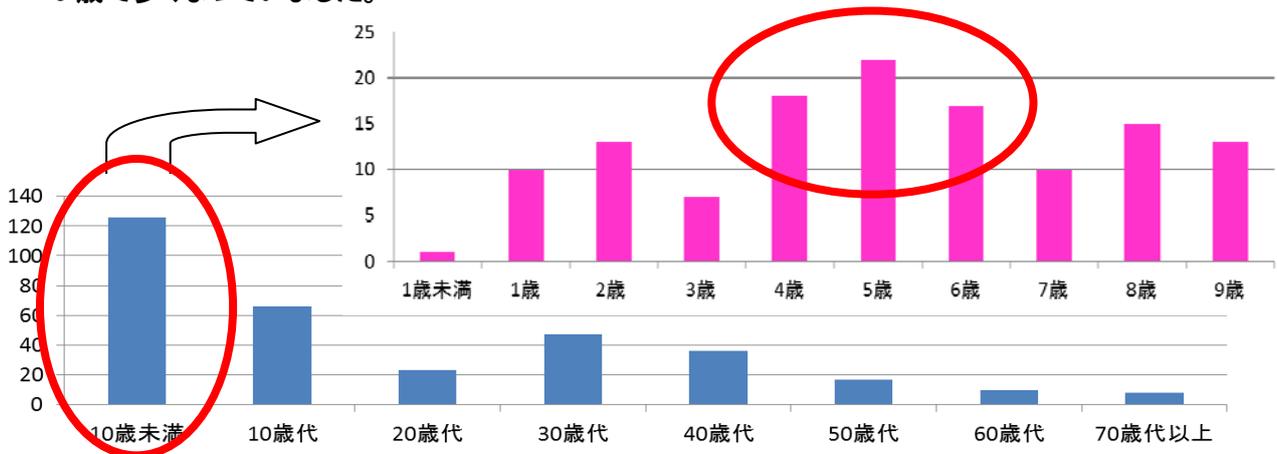


3 迅速キット結果: 今シーズン 2012 年第 51 週現在の累計では、A 型 95.0%、B 型 5.0%となっています。



4 市内学級閉鎖等状況: 今シーズンはまだ学級閉鎖、学年閉鎖の報告はありません。

5 年齢層別集計: 直近 5 週間(第 47～51 週)の累計では、10 歳未満の患者が最も多く、その内訳では 4～6 歳で多くなっていました。



6 市内病原体検出状況: 今シーズンに入り、市内では病原体定点^{※4}から AH3 亜型 3 件、B 型(山形系統) 1 件が検出されています。また、病原体定点以外では、9 月の集団事例から AH3 亜型 5 件、輸入事例から AH1pdm09 型 1 件、10 月の散発事例から B 型(山形系統)1 件、輸入事例から AH3 亜型 1 件が検出されています。全国(12 月 25 日現在)では AH3 亜型(A 香港型)80.5%、AH1pdm09 型 6.8%、A 型(型別不明)0.9%、B 型(ビクトリア系統)5.0%、B 型(山形系統)5.0%、B 型(型別不明)1.8%となっており、流行の主体は AH3 亜型(A 香港型)となっています。ただ、最近ヨーロッパでは急速に AH1pdm09 型の報告が増加^{※5}しており、今後の流行状況に注意が必要です。

※4 病原体定点・・・病原体検索の検体採取に協力してもらう医療機関(市内 17 か所)

※5 [EuroFlu - Weekly Electronic Bulletin](#)

